

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
山口県

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつうべそうごうしえんがっこう 県立宇部総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつやまぐちみなみそうごうしえんがっこう 県立山口南総合支援学校

※協力校 (モデル校の取組をサポートする学校)

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりついわくにそうごうしえんがっこう 県立岩国総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつたぶせそうごうしえんがっこう 県立田布施総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつしゅうなんそうごうしえんがっこう 県立周南総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつとくやまそうごうしえんがっこう 県立徳山総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつほうふそうごうしえんがっこう 県立防府総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつやまぐちそうごうしえんがっこう 県立山口総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつしものさきみなみそうごうしえんがっこう 県立下関南総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつしものさきそうごうしえんがっこう 県立下関総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつとよらそうごうしえんがっこう 県立豊浦総合支援学校
山口県	特別支援学校	視聴知肢病	けんりつはぎそうごうしえんがっこう 県立萩総合支援学校

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
	特別支援学校技能検定各種目別連絡協議会・指導者講習会	<ul style="list-style-type: none"> 各種目別に研究を推進 成果と課題の検討 成果物の作成
H31. 4. 26	「流通・サービス」部門 第1回連絡協議会	
R1. 5. 17	「介護」部門 第1回連絡協議会	
R1. 6. 12	「介護」部門 指導者講習会及び連絡協議会	
R1. 7. 8	「清掃」部門 第1回連絡協議会・指導者及び審査員講習会	
R1. 7. 11	「喫茶サービス」部門 第1回連絡協議会	
R1. 8. 6	「食品加工」部門 第1回連絡協議会 (本検定日)	

R1. 8. 7	「介護」部門 第2回連絡協議会（本検定日）	
R1. 8. 8	「流通・サービス」部門 第2回連絡協議会	
R1. 8. 19	「清掃」部門 第2回連絡協議会	
R1. 9. 19	「清掃」部門 第3回連絡協議会	
R1. 10. 8	「流通・サービス」部門 第3回連絡協議会	
R1. 10. 9	「食品加工」部門 第2回連絡協議会	
R1. 12. 4	「喫茶サービス」部門 第2回連絡協議会	
R1. 12. 17	「介護」部門 第3回連絡協議会	
R1. 12. 24	「清掃」部門 第4回連絡協議会	
R1. 5. 10	特別支援学校技能検定事務局連絡協議会（兼事業推進協議会、教科指導検討協議会）	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の策定 ・成果物の作成方法の統一 ・教科指導の関連性の整理
R1. 8. 6	5部門での本検定（喫茶サービス、清掃、介護、食品加工、流通・サービス） 「食品加工」部門 本検定	<ul style="list-style-type: none"> ・本検定の適切な実施
R1. 8. 7	「介護」部門 本検定	
R1. 8. 20	「喫茶サービス」部門 本検定1日目	
R1. 8. 21	「喫茶サービス」部門 本検定2日目	
R1. 8. 27	「流通・サービス」部門 本検定	
R1. 8. 28	「清掃」部門 本検定1日目	
R1. 10. 24	「清掃」部門本検定（順延分）	
R1. 11. 1	「清掃」部門本検定（順延分）	
R1. 8. 8	特別支援学校教育課程研究協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部学習指導要領、学習評価及び指導要録の記載についての周知及び協議
R1. 12. 12~14	先進県学事訪問（北海道美深高等養護学校あいべつ校）	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の新職業学科との教育課程の比較・検討
R2. 1. 17~18	特別支援学校作品展（イオン防府店）	<ul style="list-style-type: none"> ・作業製品の販売と地域の理解啓発
R2. 2. 4	山口県特別支援学校技能検定推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・取組のまとめ、成果と課題の整理、次年度以降に向けた協議
R2. 2. 7	新職業学科・職業コース設置検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・新職業学科の現状の周知 ・方向性の検討

（2）研究課題

特別支援学校技能検定やコミュニティ・スクールの取組を生かした教育課程や指導内容・方法の改善・充実について研究する。

(3) 研究の概要

本県では、障害のある子どもの自立と社会参加に向けた就労意欲の向上やコミュニケーション能力の育成、自己有用感を高める学習機会の設定等が課題となっており、学習活動の中で学んだことと自分の人生や社会を主体的に結び付けたり、地域や社会の一員としてどのような人生を歩んでいくかを深く考えたりすることができる教育活動の展開が求められている。

また、障害のある子どもが自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばしていくためには、一人ひとりの障害の状態等に応じたきめ細かな指導及び評価を一層充実することが必要である。

こうした中、本県においては、障害のある子どもたちの自立と社会参加をめざし、特別支援学校技能検定（以下、「きらめき検定」という。）の開発・充実やすべての総合支援学校へのコミュニティ・スクールの導入による地域との連携強化、4つの総合支援学校に設置している職業学科「産業科」の新職業学科「就業実践科」への改編等に取り組んできた。

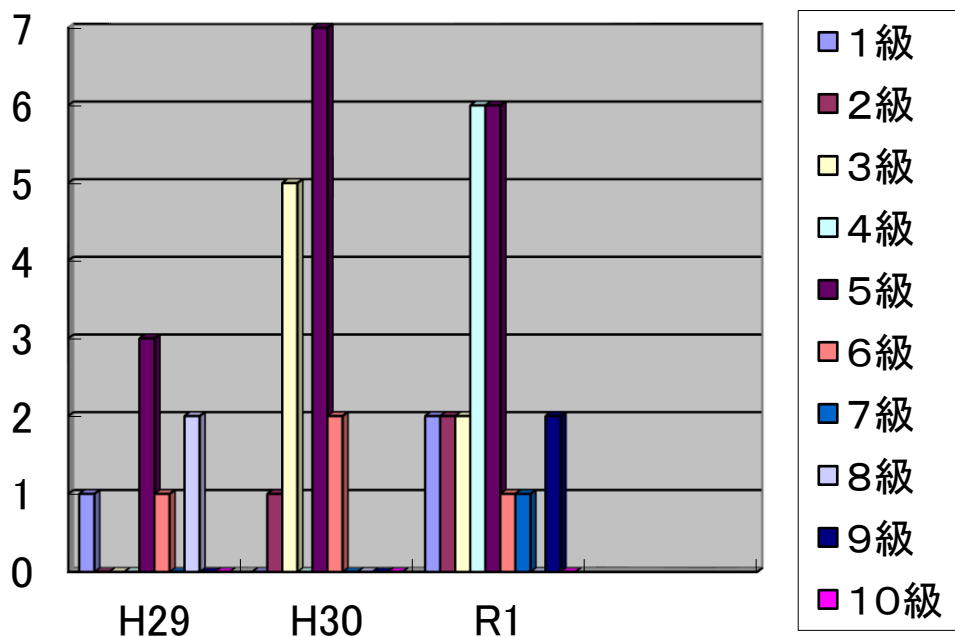
今年度、本事業の取組として3年目を迎えるに当たり、上記の3つの取組を①「『きらめき検定』における成果物の作成を通しての指導の改善・充実」、②「地域資源の活用によるキャリア教育の実践」、③「就業実践科の教育課程の検討」に焦点化し、3年間の成果をまとめるとともに今後の課題をしっかりと洗い出すことを目的に実践を進めた。

(4) 研究の成果

① 『きらめき検定』における成果物の作成を通しての指導の改善・充実

○ 「喫茶サービス」「清掃」「介護（シーツセット）」「食品加工」「流通・サービス」各部門において本検定を実施するとともに、指導書・評価表・生徒手順書の作成を行った。各学校で教育課程の改善を図ることにつながった。

○ H29：7名、H30：15名、R1：22名と、指導書等の配布により、検定にチャレンジしようとする生徒が増加した。



介護（シーツセット）部門の受験生徒数の推移

②「地域資源の活用によるキャリア教育の実践」

- 高等部において、普通科は作業学習、産業科は専門教科等の中で地域資源を活用した教育活動を行った。具体的には、燃やせないゴミの分別や公共施設、高齢者施設、近隣の店舗等の清掃、地域の水田における農業実習、地域の介護施設での実習などである。
- コミュニティ・スクールの仕組みを生かすことで、学校外での教育活動の機会が計画以上に増加した。生徒にとっては、内容の広がりや経験の拡大等による作業技能やコミュニケーション能力の向上につながり、教員にとっては、地域の方等からの意見を取り入れた授業の質の向上や地域の方等との「顔の見える」関係づくりの構築につながった。また、地域にとっては、総合支援学校の生徒や教育内容等についての理解促進につながり、学校はさらに地域と教育活動を共有できるという好循環が生まれるようになった。

③「就業実践科の教育課程の検討」

- 専門教科及び作業学習の充実のため、上記①きらめき検定の取組を通して得られた指導書等を活用し、より具体的・実践的な指導内容や指導方法を授業の中に取り入れられるよう、教育課程の検討を進めた。

(5) 課題と今後の方策

①「きらめき検定」を教育課程の改善に生かす取組の充実

- 来年度「就業実践科」がスタートすることから、「きらめき検定」の研究において得られた実践を授業内容へ活用し、企業や地域等のニーズに対応した実践的な学習となるように昇華をさせていく必要がある。
 - 5部門の指導書等から作業学習等で活用できる部分を抽出し、それぞれの教育課程に結び付けていき、各授業の実践につなげる。

② 地域資源の活用によるキャリア教育の一層の促進

- 学校が地域を「知る」、地域が学校を「知る」段階から、地域と学校が「連携」し、「協働」していく段階にステップアップし、様々な活動に取り組んでいく必要がある。
 - 生徒の姿や地域の方の姿を通して得られた実践の蓄積や協力体制をコミュニティ・スクールの視点で捉え直し、学校のキャリア教育全体計画に反映させる。

③「就業実践科」の実践

- 実践的・専門的な職業教育を実施するため、地域等との連携を強めるとともに、コミュニケーション能力等の人間関係形成能力や環境適応能力も同時に身に付けさせる必要がある。
 - 地域人材や外部専門家等と連携した専門的な授業に取り組んだり、老人介護施設等での産業現場等における実習を実施したりして、すべての教員が教科横断的な視点で教科指導や生徒指導に取り組む。また、コース制を導入することにより、生徒の多様な進路希望に柔軟に対応できるようにする。